



【漫画、タブロー、絵本】

2014年1月11日(土) - 2月23日(日)

会場：刈谷市美術館（愛知）1階・特別展示室、第1展示室、ロビー

開館時間：午前9時—午後5時（入館は閉館の30分前まで） 休館日：月曜日（ただし、1月13日は開館）、1月14日[火]・2月12日[水]

入場料：一般300円、学生200円、中学生以下は入場無料 *身体障害者、精神障害者保健福祉、療育の各手帳所持者及び付添いの方（1名）は入場無料。入館の際に手帳をご提示ください。

主催：刈谷市美術館 後援：愛知県教育委員会、一般社団法人日本国際児童図書評議会（JBBY）、絵本学会

『井上洋介漫画集 サドの卵』原画 1963年 個人蔵



「青ひげ」ポスター 1968年 ポスターハリス・カンパニー蔵

井上洋介 図鑑展

「漫画、タブロー、絵本」

「ちょうつがいの絵本」原画 1976年



神沢利子「くまの子ウーフ」表紙原画 1969年



井上洋介は、漫画家、画家、イラストレーター、そして絵本作家と、多彩な分野を横断し、幅広く活躍しています。ペンや毛筆などで執念深く描かれたその作風は、早くから「エログロ・ナンセンス」と称され、ひと目で井上作品とわかる強烈な個性を発揮しています。

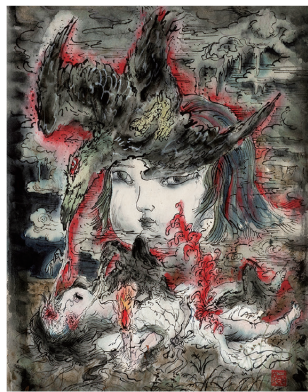
1931年(昭和6)東京に生まれた井上は、幼い頃から画家を志していました。武蔵野美術学校(現・武蔵野美術大学)西洋画科在学中の1955年(昭和30)、読売新聞に投稿した漫画で注目を集めるようになり、小島功や長新太らの評価を受けて独立漫画派に参加、漫画家として歩み始めます。1963年(昭和38)には初の漫画集『サドの卵』を発行、1965年(昭和40)には一連のナンセンス漫画で第11回文藝春秋漫画賞を受賞する一方、1950年代末から雑誌『母の友』などでカットや童話の挿絵も描き出します。さらに戦後、時代と対峙した前衛美術家として新制作展や読売アンデパンダン展、从展に出品し、タブローも描き続けてきました。

1960年(昭和35)には初の絵本『おだんごばん』を発表、1969年(昭和44)からは今なおロングセラー絵本として子どもたちから愛されている『くまの子ウーフ』シリーズの挿絵を手がけ始めました。そして、現在も数多くの絵本を精力的に制作しています。

本展覧会では、井上洋介の初期から現在までの代表的な仕事を取り上げ、多岐にわたる井上の創作活動を、「漫画」「タブロー」「絵本」「さまざまな仕事」という4つの構成に分けて、その全貌を紹介します。60余年におよぶ長いキャリアを積み、自身を取り巻く時代や描法は移り変わっても、戦災の記憶を表現活動の核に据える井上洋介。貴重な漫画原画をはじめ、卒業制作の油彩画や自作の絵本原画などにより、「俺は俺」とわが画道を貫き通す奇想天外な魅力あふれる世界をお楽しみください。



「馬の草子」原画 2012年



馬場あき子「免心往生論 磁士の夕映え—無常の虎」
〔芸術生活〕第26巻第12号原画 1973年 個人蔵



リンゴ(『COM』第3巻第7号原画) 1969年



食事A 1960年 刈谷市美術館蔵



食事の時間 1985年



「まがれば まがりみち」表紙原画 1990年
刈谷市美術館蔵



「ふりむけばねこ」着彩版画 1984年



「おだんごばん」表紙原画 1960年 刈谷市美術館蔵

会期中のイベント(高校生以上の方は要展覧会チケット)

I. 講演会「僕の知ってる井上洋介」

2014年2月8日(土) 14:00-15:30
講師:土井章史氏(トムズボックス代表、絵本編集者)
会場:美術館2階 研修室
定員:80名(先着順) 申込不要

II. ギャラリー・トーク

担当学芸員が展覧会をご案内します。
日時:毎週木曜日 13:30から(40分程度)
*ご希望の方は、当日1階ロビーにお集まりください。



〔電車〕JR・名鉄三河線「刈谷駅」下車、南口から徒歩約10分
*「刈谷駅」はJR「名古屋駅」から快速で約20分
〔車〕名古屋方面より=国道23号線(知立バイパス)「ツツ木IC」から約5km *無料駐車場あり(60台)

〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4丁目5番地
TEL:0566-23-1636 FAX:0566-26-0511
<http://www.city.kariya.lg.jp/museum/>

刈谷市美術館
Kariya City Art Museum

